

## 「ふくいの未来に繋がる 産総研の先端技術 ～産業技術総合研究所 研究シーズ展～」開催報告

(公財)ふくい産業支援センターでは、イノベーション創出の仕組みづくりの取り組みのひとつとして、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）の持つ技術シーズと県内企業のニーズとのマッチングを行い、県内企業の新たな研究開発を支援しています。

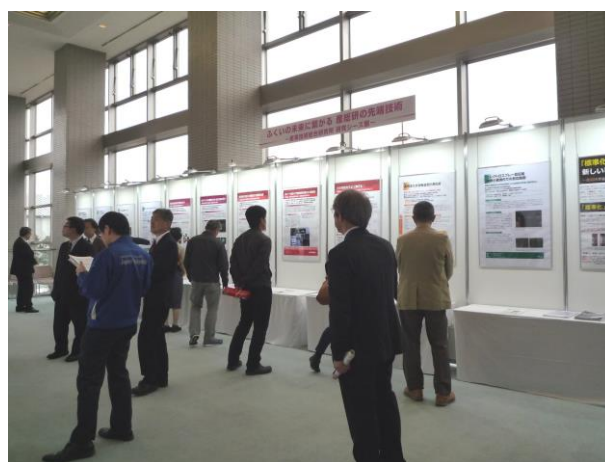
今回、「ふくいの未来に繋がる 産総研の先端技術～産業技術総合研究所 研究シーズ展～」と題し、最先端の研究開発に取り組む国立研究開発法人産業技術総合研究所の研究開発成果等の展示を行いました。併せて、(公財)ふくい産業支援センターが取り組んでいる産学官共同研究等についても紹介しました。

**日 時** : 平成29年4月20日～22日 9:00～17:00  
**場 所** : 福井県工業技術センター 研修等2F 講堂前ロビー  
**主 催** : (公財)ふくい産業支援センター

出展内容（22テーマ）

No	研究シーズ名	研究ユニット/研究グループ・チーム 役職/氏名
1	「標準化」で創る新しいビジネス ～産総研がお手伝いします～	知的財産・標準化推進部 審議役 国岡正雄
2	エレクトロスプレー反応場 ～極微小液滴内での反応制御～	環境管理研究部門 反応場設計研究グループ グループ長 脇坂昭弘
3	高精度な非接触温度測定技術	物理計測標準研究部門 応用放射計測研究グループ 主任研究員 笹嶋尚彦
4	小さな応力でよく伸びる！ ～柔軟性と生分解性を兼ね備えたポリウレタンウレア～	バイオメディカル研究部門 生体分子創製研究グループ 主任研究員 中山敦好
5	あのノーベル賞のクラゲ発光蛋白質を活用し尽くす基盤技術 ～世界初！発光蛋白質の材料・素材活用の新手法～	バイオメディカル研究部門 生体分子創製研究グループ 主任研究員 星野英人
6	色弱者の見えるを補助する照明光源 ～一般色覚者と色弱者とが表示の意味を共有～	バイオメディカル研究部門 細胞・生体医工学研究グループ 主任研究員 田村繁治
7	光デバイスに樹脂を大きく超える耐久性を ～高耐候性を有する蛍光・蓄光ガラス材料～	無機機能材料研究部門 高機能ガラスグループ グループ長 赤井智子
8	高発光効率を示す蛍光ガラス ～高輝度・高変換効率の透明蛍光ガラス～	無機機能材料研究部門 高機能ガラスグループ 研究員 篠崎健二
9	透明ナノコンポジットハードコート	化学プロセス研究部門 首席研究員 蛭名武雄
10	グラフェン透明導電フィルム	ナノ材料研究部門 炭素系薄膜材料グループ グループ長 長谷川雅考
11	セラミック基板上へのアルミニウム接合技術	構造材料研究部門 セラミック機構部材グループ 主任研究員 北憲一郎

No	研究シーズ名	研究ユニット/研究グループ・チーム 役職/氏名
12	大面積機能性表面の創生 ～濡れ性・光学機能制御技術～	集積マイクロシステム研究センター マルチスケール機能化表面研究チーム 研究チーム付 栗原一真
13	摩擦低減による省エネルギーを実現するナノストライプ構造	製造技術研究部門 トライボロジー研究グループ グループ長 大花継頼
14	衣類のように柔らかくて丈夫なトランジスタ	ナノチューブ実用化研究センター CNT 用途チーム チーム長 山田健郎
15	リグノセルロースナノファイバーの高性能材料への転換技術	機能化学研究部門 セルロース材料グループ グループ長 遠藤貴士
16	農産物の水分量を電磁波で簡便に計測する技術を開発 ～生産現場での農産物の品質管理が容易に～	物理計測標準研究部門 電磁気計測研究グループ グループ長 堀部雅弘
17	傷つけられても元に戻る透明で曇らない膜の開発 ～水溶性ポリマーと粘土粒子からなるハイブリッド膜で表面 処理～	構造材料研究部門 材料表面グループ 研究員 佐藤知哉
18	水に応答して内容物を放出する新規の有機ナノカプセルを開発 ～乾燥や有機溶媒に安定な均一サイズの水応答性カプセルが 量産可能に～	機能化学研究部門 知能材料グループ 主任研究員 小木曾真樹
19	微細構造の毛細管力を利用した超高精細・厚膜印刷技術を開発 ～透明性が高く応答の速いタッチパネルや、次世代装飾印刷へ の応用に期待～	集積マイクロシステム研究センター マルチスケール機能化表面研究チーム 研究員 穂苅遼平
20	燃えにくくて軽量の、信頼性の高い太陽電池モジュールを開発 ～車載用などの新たな用途での導入や設置・利用法の多様化を 目指して～	太陽光発電研究センター モジュール信頼性チーム 上級主任研究員 原浩二郎
21	簡単に表面の摩擦力を大幅に変えられる複合材を開発 ～グリップ性を調節できるゴムなどの表面材への応用に期待～	機能化学研究部門 動的機能材料グループ グループ長 大園拓哉
22	デジタルカメラで撮影するだけで橋のたわみを計測する技術 の開発～健全性評価における計測時間とコストを大幅削減～	分析計測標準研究部門 総括研究主幹 津田浩



展示の様子

お問い合わせ先：技術経営推進室 三谷